

府中市立府中第五中学校

創立 50 周年記念式典 式辞

校庭の整地でめっきり減った木々の緑ですが、残った梢には実りの秋を思わせる黄金の輝きが目立つようになりました。

本日、府中市立府中第五中学校の創立 50 周年にあたり、府中市長 高野 律夫様、府中市議会議長 村木 茂様、文部科学省大臣官房政策評価審議官 徳久 治彦様をはじめ、多くのご来賓の皆さま、地域の皆さまのご列席を賜り、ここに記念式典を挙行できますことは、本校といたしまして、大きな喜びとするところでございます。高い席から恐縮ではございますが御礼を申し上げます。ありがとうございます。

さて、五中生の皆さん。本校の 50 年の節目を祝う今日、私は「三つの自己発見」という話をしたいと思います。

第一の「自己発見」は、いま皆さんの目の前に掲げられている大きな額に書かれた「自己発見」の文字です。

府中五中は、昭和 37 年 4 月 1 日、府中第一中学校から独立して、市内五番目の中学校として設立されました。初代校長の林 保先生は、五中を世界にただ一つしかない誇りに満ちた学校とするために、一つの理念を打ち立てられました。

それが本校の校訓「自己発見」です。今回の記念誌の最終ページに林校長先生ご自身の自己発見に対する思いが記されています。そこからうかがえるのは、変わりゆく自分を常に正面から見つめ、本来の自分自身の在り方を探し求めていくことへの確固たる信念です。それこそが、府中第五中学校の 50 年の歴史を支えてきた 基盤であり、大黒柱であることに気付きます。

皆さんが見ているこの額は、今から 45 年前、創立 5 周年の記念として、当時、まだ校庭の西側にあった古い体育館に初めて飾られました。この文字は広田亭蔵先生によるものです。

それから 15 年経った昭和 57 年、創立 20 周年の記念事業の際に、この額に書かれた文字をそのまま石に写して刻んだ記念碑がつくられました。現在は、東門を入ったすぐ右手に移されましたが、この碑は風雪に耐えて 30 年間、五中の様々な歴史を見守り続けてきました。

そして、今年。平成 24 年、新しい校舎の落成とともに、創立 50 周年の年を迎えました。

天井から降り注ぐ明るい光にあふれた、エントランスの吹き抜けの西側の壁面に、二週間前、一つの彫刻作品が飾られました。

その作品が二つ目の「自己発見」です。それは、本校の第11期卒業生である彫刻家の小泉俊己先生が、同窓会からの依頼により、新たな五中のシンボルとして制作し、寄贈してくださった作品です。作品名は「オリジン」。それは起源や由来、始まりなどを意味する言葉です。

半世紀を過ぎた本校が、創立の原点を見つめ直し、これまでの流れを振り返りながら、未来への新たな出発点を迎える。まさに、50周年にふさわしい題名だと思います。

この作品は、独立した三つの輪がそれぞれ互いに重なり、連なり、かかわりながら一つの動きを生み出しているダイナミックなものです。鉄でつくられたとは思えないほど軽やかで、重さから解放されて浮き上がり、上昇するようなやわらかさの中にシャープな美しさが印象的な素晴らしい彫刻作品です。

その「三つの重なり」は、もしかしたら、今年度、新たにつくられた本校の三つの教育目標かもしれないし、家庭と学校、地域社会のそれぞれのかかわりかもしれません。

いずれにしても、見る角度や光の微妙な変化によって、様々に表情を変えるこの作品は、見る人の気持ちをそのまま形に映し出しながら、穏やかに語りかけてくるように感じられます。それは、見ることを通して一人一人を新たな「自己発見」へと誘う鏡のように思えてなりません。

これからの日本の彫刻界を代表する小泉先生が、本校の卒業生であること自体が喜ばしいことですが、本来ならば、美術館に展示されることがふさわしい貴重な彫刻作品が、本校の校舎を飾っていること、そして、その中で学校生活を送ることができる恵まれた五中の環境を忘れないでほしいと思います。

これは、本校の50年目の出発を記念する新たな「自己発見」のシンボルです。皆さんには、その意味を深く理解し、それを次の五中生へと語り継いでほしいと思います。

さて、この彫刻が飾られている壁と向かい合う東側に、2日前、本校の教育目標のプレートが飾られました。そこに刻まれた校訓「自己発見」の文字は、今回、小泉先生からのご提案で、私がデザインした絵文字です。それが三つ目の「自己発見」です。

「自己発見」の「自」の文字は、人が手を上げて万歳をしているように見えます。その姿は、古代から中世にかけて、ヨーロッパの教会の壁画やモザイクによく描かれた像をヒントにしています。それは「祈る人」を表しています。今は、手を合わせる事が祈る姿となっていますが、昔は、この絵のように手を上にかざして祈りました。それは、人間を越える偉大な力を両手で受け止める姿であると同時に、自分自身を天に、つまり大きな目的のために捧げる姿でもあります。

五中が目指す「自己発見」の自己とは、独りよがりで我がままなエゴのことではありません。大きな価値に結ばれて、常に、より以上を

目指して高まっていく自分です。そのためには、自分の周りの社会や世界へと視野を開き、行動していく態度を忘れてはいけない。そのことを、この「自」という文字で現しました。

地球の環境が人類の課題となっているいま、そして、東日本大震災の復興が日本の課題となっているいま、大切にしてほしい「祈りの姿」です。

「自己」の「己」、おのれという字は、ろうそくの炎のような「ともしび」を手に持ち、ひざまずいている人の姿です。「自」の形が外に対する積極的な行動を表すとするなら、この「おのれ」という字の形は、自分の内面を深く見つめる人の姿を表しています。それは、自分の中に絶えることなく燃え続ける火、つまり、理想や夢を守り、育んでいく態度とも言えます。

ろうそくの炎は小さくか細い光かもしれませんが、闇の中ではそんな小さな火でも明るく輝きます。もしも、激しい風が吹いてその炎を揺らしたとしても、その炎が燃えて目指す先は、常にまっすぐ上を、天を目指しています。一人一人が目指して、探し求めていく本来の自分、それがこの炎の意味です。

「発見」の「発」という字は、今は簡単に略して書きますが、昔のこの字は、「はつがしら」に弓を書き、つくりを「しゅぶ」とする複雑な字でした。もともとは「弓を射る」という意味で、後から「表れる」「出る」「起こす」「盛んになる」などの意味が加わりました。私の「発」の字は、本来の意味にならって、弓を射る人をイメージしたものです。的をねらって矢を放つように、自分自身をしっかりと見つめて、妥協をしない厳しい姿勢を、そこに表したつもりです。

そして、最後の「発見」の「見」は、すぐにわかると思いますが、目の形を 図案化したものです。ただし、漢字の「見る」という字が、「目と人の二文字を組み合わせた形」となっているのに対して、プレート上の「見る」という字は、下の部分を少しアレンジして、人ではなく「心」に見えるようにしています。人を人らしくするのは、その心です。人がものを見る時には、カメラのレンズのように物をただ形として写しとどめるのではなく、感覚や感情など、心を働かせながら物事の意味をとらえていくのです。

「自己」を見つめ、見出していくためには、心の眼を養わなければならない。五中の「自己発見」とは、そのようなものだということを、絵になぞらえた文字で表しました。

これが、本校の創立50周年にあたって、私が伝えたい「自己発見」の解釈です。それを参考にしながら、五中生の皆さんには、一人一人が、自分自身の「自己発見」の意味を解き明かしてほしいと願っています。

府中五中の50周年、それは校訓「自己発見」を振り返ることであり、その意味を未来に向けて深めていくことです。いま、話してきた

三つの「自己発見」は、一人一人が「自分」と「五中」を考えていく時のヒントであり、次の一步を踏み出すための後押しです。

皆さんは、いま座標軸の原点に立っています。その座標の縦軸は、創立からの50年、そして、これからの50年、五中の歴史に象徴される「時間の流れ」です。そして、横軸とは、今、皆さんがいるこの場所を原点として、この地域に、府中に、やがては東京、日本、世界へとつながって、これからの活躍の舞台となる「空間の広がり」のことです。

いま皆さんがいる座標軸の縦軸と横軸が交差する原点。その原点のことを、英語で「オリジン」と言います。

五中生の皆さん。一人一人が世界に二人といたないかけがえのない存在です。皆さんが「自己発見」の精神をいだいて進む、これからの歩みとともに、府中五中の未来を切り拓く旅も、また、新たに始まります。

いま、新しい「自己発見」を告げているエントランスの彫刻が、自分を探し求める旅に向かう皆さんの出発を祝ってくれています。その像は、やがて、皆さんが母校であるふるさと府中五中に舞い戻る時。その時には、きっと、今の一人一人の原点＝オリジンの記念となって温かく迎えてくれることでしょう。

最後になりましたが、地域ならびに関係の皆さまには、日頃から本校の教育活動に多大なご理解とご協力をいただいておりますことに、あらためて感謝を申し上げます。

創立50周年の大きな節目を迎えた本校は、これから次の半世紀に向けての一步を踏み出します。日本の社会に転換が求められているいま、これからの生徒の自己発見の歩みを支えていくには、ご家庭や地域の皆さまのご協力なくしては困難なことです。

地域と共に手を携えて進む府中五中の教育活動を、今後も引き続き、ご支援いただきますようお願い申し上げます。

結びに、ここにお集まりの皆さま方に、これからの府中第五中学校の教育活動の益々の充実と発展を見守り続けていただきますようお願い申し上げますとともに、本日の会への感謝を申し上げて、創立50周年記念式典の式辞といたします。

平成24年11月9日

府中市立府中第五中学校長 中村 一哉